

# 特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク

## 2022年度事業計画書

期間:2022年4月1日~2023年3月31日

ビジョン ー目指す社会像ー

それぞれの強みや違いを活かし、繋がりが合い、主体的に未来を創る行動に溢れるいきいきとした社会

ミッション ー社会的使命ー

若者の力を活かして、地域の課題解決活性化を加速する

若者の力を活かして  
地域の活性化/課題解決を  
加速する

Tochigi  
Youth  
Supporters  
Network\*

実施団体・問合せ

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク

〒320-0862 栃木県宇都宮市西原1-3-4  
TEL 028-612-1575 FAX 028-612-1585  
E-mail: [office@tochigiapp.net](mailto:office@tochigiapp.net)

## 1.2020~2022年度基本方針(2020.6総会承認)の確認

### (1)基本方針(2020~2022)

アフターコロナ社会に適応するチームの在り方(社会に果たす役割、意義、事業、ビジョン、プロセス)の見直しと再構築を行い、取り組むべき課題に対してアクションの実現と加速をする。

### (2) 取り組むべき課題(2020~2022)

① 新型コロナウイルスの影響による「新たな社会像」や「次世代を担う若者・学生の価値観」の変化に即した、ユースミッションの実現に向け

た事業やスキームの見直し・再構築する。特に、若者・学生が描く求める「未来の社会の姿」を丁寧に捉え、その若者の求めを中心に据

えた事業スキームを変容していく。

② 地域間の人材還流の仕組みとネットワーク、実用性の整備

③ 若者の生活の安定と社会活動参画しやすい環境の整備

④ 「地域組織」の機能・組織の変革・介入の不足、「地域組織」と若者のコーディネート不足、エリアマネジメント力ある人材育成・支援

⑤ 上記を実行していくための組織体制課題として、社内人材育成強化、ガバナンス・組織基盤の再構築

### (3)現在取り巻く外部環境の認識について

①新型コロナウイルスと5Gによるパラダイムシフトへの適応

②「地域プログラム」をつくりだす人材が各地に広がりつつあり、参加者・担い手の掘り起こしが必要。

③若者の経済的生活基盤の弱体化

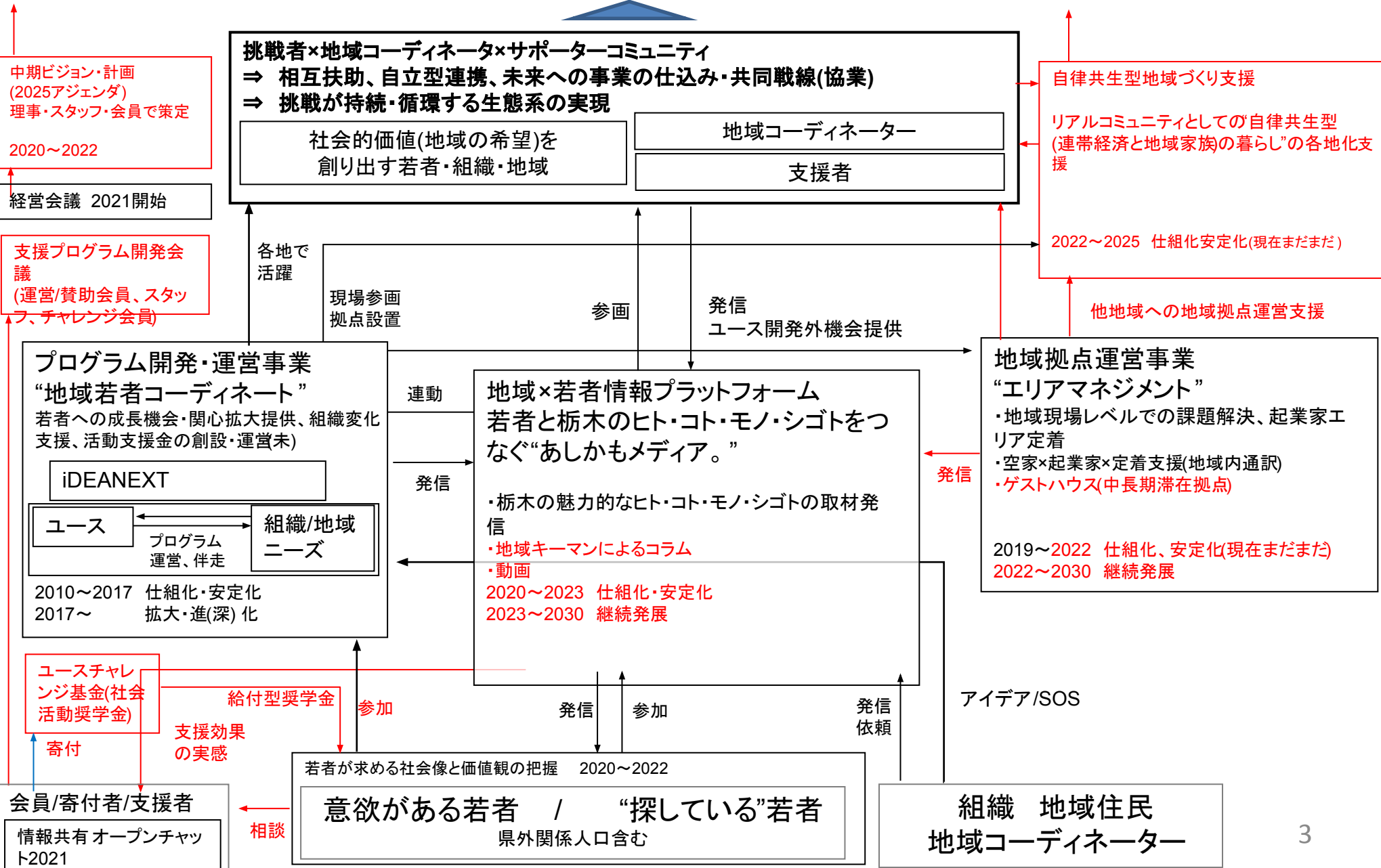
④「地域疲労」の進行

### (4)組織内の内部環境の認識について

①事務局スタッフの若年化が進み、若者・学生により近い心理的距離間と価値観・感覚で業務を推進できる。

②若者の参画や支援を行う外部組織(クライアント)や協力機関からの期待と連携については、継続して維持・発展しており、「若者 × 地域」支援者は広がっている。

ミッション:「若者の力を活かして、地域の課題解決 / 活性化を加速する」の実現



- ・ユーススタッフがが増えて、コーディネート・マニュアル化が難しい気がするが、職員間のコミュニケーションどの程度取れているか。中堅も入ったが面談の日程の調整の仕方などどうなっているか
- ・幼いうちから地域に関わるのが大切だと思っている。高校生などに関わってもらうのは出来ているが、中学生以下の子供への地域への意識付けは何かしているか
- ・よく頑張っている。事業で深掘りするとところと広げるところ両面あるので、バランスが必要。それぞれがやりたい事業が何なのか考えさせ、やりたいことに取組ませるのが成果に繋がるので良く対話して良い団体になるようにマネジメントしてほしい
- ・各週や毎月ペースで活動報告など内部で行った方が良い。都度岩井さんが対応は大変なので、相談報告他いっせいにについて仕組化をして人材育成を
- ・岩井さんと若手スタッフとの認識の乖離があるはずなので埋めた方が良い。固定のミーティング大切。一方で理事はじめとする外部に相談できる体制があると良いチームになるのではないかと。事務所から適度な距離のある古河さんも丁度よい
- ・委託事業などで若者と接点が出来た次のステップとして自主事業に参加してもらったり、運営参画してもらうための導線を提案できるような組み立てが重要。事例としてはどの程度あるか
- ・会員を入れたチームの運営イメージがまだ湧き切らない。岩井さんの考えを会員に届くまでの過程にスタッフがいると良い。代表が文字化したものをスタッフが通訳して資料を創るなど出来ると良い。職員が岩井さんの言葉を高いレベルで理解できていないと会員と力を合わせた運営は輪郭がぼやけてしまうのでは
- ・来年の注力事業について、ターゲットではないので直接触ってはいけない。ユースが変革モデルのあるべき姿を出さないといけない。主役は若者。ユースの役割は事例が全国に広がるようなシステム設計では
- ・若者×地域コミュニティについてもシステム設計しかない。ゴール設定を細かく設定しないと若者の指針がなくなってしまう。
- ・底上げは幼児教育からやらないと無理。情熱がある若者を引き上げてスターにする取り組みが必要では。岩井さんが若者から凄いなと思われる人物であるべき。その役割をスタッフが担っても良い。理事は忙しいからと遠慮せずに飛び込んで来てほしい
- ・若者の生活不安定化は問題。基金など出資できるので支える仕組みを作って、多くの人を巻き込めるようにしてほしい
- ・ユースとして育む人材モデルをどう考えるかスタッフと対話して解決策を探る必要あり
- ・希望を持たず自己肯定感が低い若者が増えているのが事実だとしたらそうしたら救えるかという葛藤も持っているのは分かるので、解決のために実現できる方法を検討していく必要がある。達成感を体験させることが肯定感向上に必要なので、事業の中で仕組み化することもできるかもしれないと思う。
- ・ユースの自主事業で複数に呼び掛けられるものが定期的にあると良い。多様性を活かして才能ベースで人を集めてチーム化していく切り口も良いのではないかと日本財団の異彩プログラムを参考に
- ・頻繁にこのような議論を交わすことは必要。挑戦と成長意欲を持った若者が減っているわけではないと思う。スタッフも様々な現場に身を置いているので、それぞれの仮説を持ち寄って再構築できると良い

## 2022年の注力事項

### 取り組むべき課題 (2020～2022)

(1)新型コロナウイルスの影響による「新たな社会像」や「次世代を担う若者・学生の価値観」の変化に即した、ユースミッションの実現に向けた事業やスキームの見直し・再構築する。特に、若者・学生が描く求める「未来の社会の姿」を丁寧に捉え、その若者の求めを中心に据えた事業スキームを変容していく。

(2)地域間の人材還流の仕組みとネットワーク、実用性の整備

(3)若者の生活の安定と社会活動参画しやすい環境の整備

### 2022の注力して取り組むべき課題

「**挑戦・成長意欲**」以前に「**不安と自信がない**」若者の広がり  
創設からこれまで「**挑戦・自己成長意欲を育み主体的に行動し、社会や仲間へ貢献できる若者**」を一つの育む人物像とし、**これからもそれらの対象者へは、様々な機会提供を実施していく。**一方で、大学入学からコロナ影響によりオンライン授業やサークル活動ができなかった大学生（現在2年、3年生）の中には、挑戦や自己成長意欲以前に、  
i) “自信・自己肯定感が低く、他者との関わりを避ける”、  
ii) “新しいことよりも同じことを続け、気持ちが乱されたくない”、  
iii) “将来に対しても考えてもわからないし、考えたところで通りにならないしと、考えるや自分と向き合いこと自体を諦める”傾向の学生が増えているように感じている。**自身の「挑戦・成長」の前に、「安心や人と関わる自信・楽しさ」を実感できる機会が重要である。**

### 多様な協力者の力を借りながらのプログラム開発・提供をしながらも自団体中心視点の活動展開

若者と地域のコーディネート展開において、期待や信頼、人材が当会に帰属し、その中で対応してきた。当会と接触あるニーズやアイデアだけでなく、他地域にも若者の活躍展開できるようにしていくため、課題・アイデア団体から共有できるコーディネート機関連携を進める必要がある。

### 経済的・心理的「生活不安定」の進行と深化。

奨学金受給割合（学部生）も2020年度49.6%（2000年度28.7%）、若年層完全失業率2020年度4.6%（全体2.8%）など、若者生活基盤の脆弱さと将来の希望が持ちにくい社会情勢の中、生活コスト下げること、頼る仲間がいることと、キラキラしすぎない希望と近さを感じるロールモデルとの出会いがより一層必要である。

### 課題対応方針

①「**関わり合い、きっかけ、**」に**重点をおいたプログラムの開発と自主事業化。**

①会員（新規含む）や若者、県内若者支援関係者、教育機関等と“**動く前から諦めてしまう傾向**”など**現在の若者の特徴**についての**多角的視点での確認**や**どのような関わり方・支援案ができるかの意見交換を実施**

①各地域のコーディネーター組織とのコミュニケーションを図り、各地域の課題感の共有と連携したプログラム開発展開等の実施。

①シェアハウス機能と地域関係構築・居場所機能を持ったYOUTHHOUSEの機能化と事業単体での黒字化。持続可能性を実証できた後、各地展開（理解ある大家さんへの掘り起こしと提案）

②あしかもメディアの機能強化と単独黒字化による事業継続性に安定。気持ちと意欲を育むメディア機能に加え“**会える（関**

### 具体策

「信頼できる人との出合いや心の声を打ち明けられる機会」、「重くなく期待されるなど誰かと繋がれる、つながっている安心感を感じられるプログラム」や「わからないことをわかろうと行動することの賞賛や喜びを感じられる機会」、「仲間と力を合わせてできた達成感を実感できる機会」などのプログラム）  
社会や仲間をよくする行動を育む手前としてのプログラムの展開は考えられるが、前提となる価値観が異なるので、どのように訴求できるか。

とちぎ学生未来創造会議（県内若者支援関係者、地域コーディネーター共同のプログラム開発・提供チーム）の再開と新チームの構成と機能化。  
※対面会議が前提で日程が合わないことや構成機関それぞれが単独で若者を巻き込むプログラム提供ができるようになり、休止へ。オンラインでの会議と新たな課題共有からの開発を実施。（栃木県青年会館助成）

あしかもメディア、YOUTH HOUSE、実践型インターンなどの自主事業収入の増加。

## 2022年の注力事項

取り組むべき課題  
(2020~2022)

(4)「地域組織」の機能・組織の変革・介入の不足、「地域組織」と若者のコーディネート不足、エリアマネジメント力ある人材育成・支援

(5)上記を実行していくための組織体制課題として、社内人材育成強化、ガバナンス・組織基盤の再構築

2022の注力して取り組むべき課題

**プログラム提供視点からコミュニティ定着支援へ**  
地域の課題やアイデアを当会がコーディネートし若者が参画し、意欲や成長、実践など創出できている。しかしその後、地域や組織に関わり続け活動継続していくチーム全体での共有できていないかった。

**事務局主導から会員・支援者の力を結集したチームへの再構築**

課題対応方針

プログラム提供だけでなくその後も地域につなげていく視点を持って、若者や支援者に関わり、行動力と関係性を活かし新たな物事を生み出す地域好循環を仕掛け支えるコミュニティマネジャー機能について、研究・実践していく。地域の課題やアイデアを事務局がプログラム開発し若者に提供したモデルから、プログラム参加者、クライアントなどとのコミュニティをつなげ地域(の課題やアイデア)と若者、組織がつながり合うコミュニティづくりと、そこから新たな物事を生み出し好循環を仕掛ける

会員・支援者・事務局、相互のコミュニケーションの充実と、「若者」、「地域」の支援策についても、事務局だけでなく広く意見と議論できる機会をつくる。

会員・支援者・若者の声を重ねて、次の3年間の中期計画の策定

具体策

修了後の活動継続率に重点をおいたiDEA→NEXTの実施  
若者が活躍しやすい地域、組織の受け入れ態勢づくりの強化(下野市公民連携支援事業、栃木県地域助け合いモデル地域づくりづくり、山あげ祭り関係人口創出事業、県グリーンツーリズム事業)

会員交流会、OPENCHATの機能化、会員・支援者への積極的な呼びかけ、会費・寄付システムの変更(syncable)、会員・支援者担当職員の配置

次の3年に向けた2022年 “若者”と“地域”の課題解決/活性化を加速させるための社会インフラづくりを事務局だけでなく、会員、支援者、若者と共に。

任意団体(2008年)から15年目(法人13期目)を迎え、これまで「若者の挑戦・成長を育み支えていくこと」、社会全体での支援や応援が「若者」に届くことで「地域」をより豊かにやさしく変えていけること、またそれらをつなげ・支えるコーディネーターの社会的役割と認知を実態を創り出すことに重点を置き、事務局主導で進めてきてしまっていた。

事務局職員の若年化への**長年の**課題に対して、この3年で、20代(8人職員のうち5名、うち3名大学新卒)を中心とした体制にすることができた。若手職員の合流は、若者視点に立った事業運営、若者とのコミュニケーションの近さなど、**若者との関わりの広がり**と**密度を高めることができるようになった。**

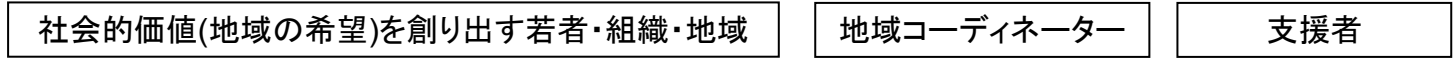
事務局中心の事業推進体制の整備を進めることはできたが、組織や事業だけの視点となりがちになってしまい、会員、支援者、若者、事務局、これから出会う方々たちを踏まえ、我々はどんな社会、どんな地域を理想とするのか、そのために若者を支えていけるような社会環境をどう創り出していくか、「ソフト的社会インフラづくり」を行うチームへのステージへの引き上げについても検討したい。また社会の複雑さと深刻さは、若者たちだけのアクションでは難しい。安易に若者に期待する大人もいる中で、ユースは若者を起点としながらも、全世代で挑戦と成長と創造していく社会インフラについて



ミッション:「若者の力を活かして、地域の課題解決/活性化を加速する」の実

ビジョン:それぞれの強みや違いを活かし、繋がり合い、主体的に未来を創る行動に溢れるいきいきとした社会

挑戦が持続・循環する生態系の実現  
挑戦者×地域コーディネータ×サポーターコミュニティ ⇒ 相互扶助、自立型連携、共同事業化開発・協業



自律共生型地域づくり支援  
リアルコミュニティとしての自律共生型(連帯経済と地域家族の暮らし)の各地化支援

▶2022 栃木県 助け合い地域づくりモデル事業

2022 若者×地域コミュニティの機能化

▶中期ビジョン・計画(2025アジェンダ) 理事・スタッフ・会員で策定 2020~2022

▶経営会議(2021~) ▶支援プログラムアイデア会議 ▶会員・支援者・学生・交流プログラム(案, 焚火、学生と仕事がつながる会)  
▶情報共有オープンチャット(2021~)の機能化:会員間の相談・情報提供・会員発の交流機会  
▶動く前から諦めがちな若者層他、若者の特徴の把握

	2021年	2022年
運営会員: 若者×地域の仕掛けをつくりたい、考えたい会員(時間・アイデアの支援)	18名	→ 40名
賛助会員: 会や若者を応援したい会員(資金的支援)	18名	→ 100名
チャレンジ会員: U25でチャレンジ会員期間4年間(これまで永年設定)	72名	→ 100名

受入地域・組織づくり・ソーシャルプロジェクト支援  
▶2022・下野市公民連携事業・山あげ祭り関係人口創出事業・県グリーンツーリズム事業

会員化 ▶プログラム都度呼びかけ、▶サイトリニューアル、▶SNS,メルマガ担当配置し計画性のある広報展開、▶会員コミュニケーション担当スタッフの配置、▶新会費・寄付システムの導入「syncable」

各地で活躍する若者と地域の変化

寄付者獲得 若者を応援する文化と資金をつくる  
▶寄付キャンペーン/ホンデチャレンジ  
2,011,791円(2021) → 3,640,000円(2022) 寄付

他地域への地域拠点運営支援

プログラム開発・運営提供事業 “地域若者コーディネート”

▶若者への成長機会・関心拡大プログラム提供、組織変化支援、▶実践型インターンシップ、▶宇大未来塾(2017~)、▶栃木県新事業創出支援事業(2020~)  
▶2022 関わり・きっかけプログラム(自主)

iDEA→NEXT

ユース ← 相談 → 組織/地域ニーズ

プログラム開発・提供

2021 提供者4,872名 協力者511名 活動時間 22864時間  
▶(修了) 那須烏山市民話デジタル化 (2020~21)

地域×若者情報プラットフォーム 若者と栃木の魅力的なヒト・コト・モノ・シゴトをつなぐ “あしかもメディア”

・栃木の魅力的なヒト・コト・モノ・シゴトの取材発信  
・地域キーマンによるコラム・動画

▶あしかもメディア(2020~)運営 → 会えるメディア、つながるメディア (読者、掲載者の交流機会の増加)  
▶求人(有料)、協賛企業の拡大  
2021年 56,090pv / 協賛企業3社  
→2022年 7200pv / 協賛企業10社

地域拠点運営事業“エリアマネジメント”

・地域現場レベルでの課題解決、起業家エリア定着  
・空家×起業家×定着支援(地域内通訳)  
・ゲストハウス(中長期滞在拠点)

▶aret(2020~)、YOUTH HOUSE(2020~)  
▶文星芸大リカレントセンター(拠点+カリキュラム)の立上支援(2020~)

▶(修了) 創業プロデューサー事業 (2019~2021)  
宇都宮市自治会活性化モデル事業 (2020)

地域活動・実践者(プレイヤー)

ユースチャレンジ基金社会活動奨学金  
▶2022「星の杜中・高校」放課後支援  
▶iDEA→NEXT活動支援金(2012~)

会員/支援者/協力者  
▶情報共有オープンチャット(2021)

組織 地域住民  
地域コーディネーター

▶2022若者が求める社会像と価値観の把握 (2020~2022)

意欲がある若者 / “探している”若者 県外関係人口含む

2. 2022年度事業計画 ①特定非営利活動に係る事業

事業の種類(定款)	事業プログラム	事業内容(案)	備考(1.実施日時、2.場所、3.事業パートナー)		受益対象者の範囲及び延人数	予算(収入)(千円)
実践型インターンシップ事業	実践型インターン「GENBA CHALLENGE」	若者の力を取り入れた組織変革の加速 企業の若者向け情報発信インターン	1.通年 2.企業 10社 3.受入企業等		継続 /自主事業 企業10社 大学生15名	1,520
	目白大学課題解決型インターンシップ	企業の経営課題に対して学生が分析・改善提案をチームで行うインターンシップ	1.8月~2月 2.目白大学 3.目白大学		継続 /委託事業 企業2社 学生15名	390
① 社会事業を行う人材育成事業	ソーシャルグッドスタートアッププログラム「IDEA→NEXT」	ブラッシュアップ合宿 ファイナルプレゼンテーション	1.通年 2.栃木県内 3.協賛企業等		継続 /自主事業 10組	1,500
	起業・創業ネットワーク 起業家養成講座	高校の探求学習やキャリア教育の場面において、自ら解や理想を設定し、行動を創造しているプログラムの提供、また宇都宮大学での授業補助。	1.通年 2.宇都宮市内高校(宇女高、宇北高他)、宇都宮大学 3.宇都宮市ベンチャーズ		新規 /自主事業 3校/高校生 300人	400
	課題解決型人材養成	起業初期者の伴走支援事業	1.通年 2.栃木県内 3.栃木県経営支援課、株式会社WE		継続 /委託事業 起業初期人材30名	990
	地域の担い手育成事業	地域づくり人材育成	1.通年 2.栃木県 3.栃木県地域振興課		継続 /委託事業 300名	3,980
	下野市 関係人口創出事業	地域コーディネーターの育成および中間支援組織の立ち上げ	1.通年 2.下野市・東京圏 3.下野市		継続 /委託事業 50名	3,476
	下野市 公共施設公民連携推進事業	公民連携事業の開発運営	1.通年 2.下野市 3.下野市		継続 /委託事業 100名	6,600
	若者人材 育企業向け人材育成事業	宇大未来塾「とちぎ志士プログラム」 「次世代経営マネジメントプログラム」	1.通年(5月~2月) 2.栃木県内 3.宇都宮大学		継続 /業務委託 20~30代 リーダー候補 60人	4,000
	ユースハウス運営事業	大学生のシェアハウスと地域と大学生が関わる地域拠点運営	1.通年(4月~3月) 2.宇都宮市弥生町		新規 /自主事業 延べ200名	360
	各種プログラムの開発	ワークキャンプ等、若者への関わりあい機会提供	1.通年(4月~3月) 2.栃木県		新規 /自主事業 延べ200人	250



事業の種類(定款)	事業プログラム	事業内容(案)	備考(1.実施日時、2.場所、3.事業パートナー)		受益対象者の範囲及び延人数	予算(収入)(千円)
②ソーシャルプロジェクト支援事業	とちぎグリーンツーリズムネットワーク活性化事業	グリーンツーリズム実行団体、支援団体、関連期間のネットワーク化と機能化 モニターツアーの実施	1. 7月~3月 2. 栃木県内 3. 栃木県農村振興課	継続 /委託事業	GT関連団体 80組	16,976
	NPO×地域助け合い地域づくりモデル事業	宇都宮市西地区をエリアに地域組織と連携しながら、地域内で課題と担い手の掘り起こしを行い、地域の内の支え合える地域づくりを行う。	1. 4月~10月 2. 宇都宮市西地区 3. 栃木県県民文化課 西地区まちづくり推進委員会 さくらにし地域包括支援センター 宇都宮市高齢福祉課 帝京大学乗川ゼミ	新規 /委託事業	西地区住民、宇都宮市内大学生等 200人	
	山あげ祭り担い手確保映像化	那須烏山市に460年続く山あげ祭りの担い手「若衆」不足の課題にして、本質的価値、また若衆視点での映像化と、関係人口若衆の仕組みを開発する	1. 4月~10月 2. 那須烏山市 3. 栃木県デジタル戦略課	新規 /委託事業	烏山を離れて暮らす人、県内の若者山あげ祭り観客	
	文星芸大リカレントセンター立上支援	芸大のリカレントセンターのコンセプト、カリキュラム、オペレーション等の整える支援を実施(2023年10月に開校予定)	1. 4月~10月 2. 文星芸大 3. 文星芸術大学	新規 /自主事項	県内社会人	
	宇都宮空き家会議	空き家の利活用が進むマッチング、人材育成の仕組みの開発と運営	1. 4月~3月 2. 宇都宮市内 3. 宇都宮空き家会議	継続 /委託事業	10名	
	地域拠点の活用・運営	aretの運営による日常的挑戦者支援	1. 通年 2. aret(宇都宮市西地区) 3. 光琳寺	継続 /自主事業	200名	
③ネットワークコミュニティ形成事業	YOUTH TIME他、会員交流	学生×地域の未来議論、会員交流、若者支援策開発会議	1. 隔月 6回 2. 宇都宮市内 3. 会員	継続 /自主事業	60名	700
⑤挑戦する若者を支える奨学金事業	ホンデチャレンジ	読まなくなった古本を寄付して若者を育む仕組み	1. 通年 2. 全国 3. パリ्यूブックス	継続 /自主事業	40名	540
⑦調査研究事業	なし	なし	なし			
⑧情報発信/出版事業	情報発信	WEBサイト、SNS(FACEBOOK, Twitter, LINE@)、ソーシャルニュースの管理運営。	1. 通年	継続 /自主事業	—	500
	あしかも。メディアの運営		1. 通年	継続 /自主事業	9	1,500

# 2022組織体制・役員/職員

役員任期(2021.6~2023.6、更新有)

理事	岩井 俊宗	代表理事
理事	塚本 竜也	副代表理事 NPO法人トチギ環境未来基地 理事長
理事	古河 大輔	一般社団法人カゼトツチ 代表理事
理事	大塚 雅斗	株式会社キッズコーポレーション 代表取締役
理事	小久保 行雄	有限会社ドンカメ 代表取締役)
理事	中野 謙作	一般社団法人栃木県若年者支援機構 理事長
理事	金井 光一	NPO法人チャレンジド・コミュニティ 代表理事
理事	清嶋 磨利夫	株式会社キップルネットワーク 代表取締役
理事	野崎 千晶	株式会社ワークエントリー 栃木事業部宇都宮営業所所長
理事	濱野 将行	一般社団法人えんがお 代表理事 ※iDEANEXT卒業生
理事	皆川 美咲	事務局職員
理事	山下 典江	ビジョナリーサポート代表 中小企業診断士
監事	安藤 正知	NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事長
監事	山田 仁浩	フィネスコ株式会社 代表取締役社長 ※認定経営革新等支援機関

事務局

理事兼職員 岩井俊宗(週5) 古河大輔(週3日) 皆川美咲(育休中)

職員 正木健(週5日) 中山裕貴(週5) 森谷真依(週4) 渡邊貴也(週4) 篠原悠太(週4日)

長期インターン生 白金怜励(宇都宮大学4年)、鈴木千夏(宇都宮大学2年)、吉田梨央(宇都宮大学2年)、2022年6月現在在籍

参考) 2021年度総会資料

## ▶あしかもメディアの機能化と収益化イメージ

### 企業ニーズ・課題

若者にどう届けばいいかわからない。  
若者から見て魅力があるかわからない。

### 若者ニーズ・課題

会社説明会での言葉を信じ切れない。働いて  
る現場、雰囲気、社員の様子が知りたい。いろ  
んな会社、仕事を知りたい。

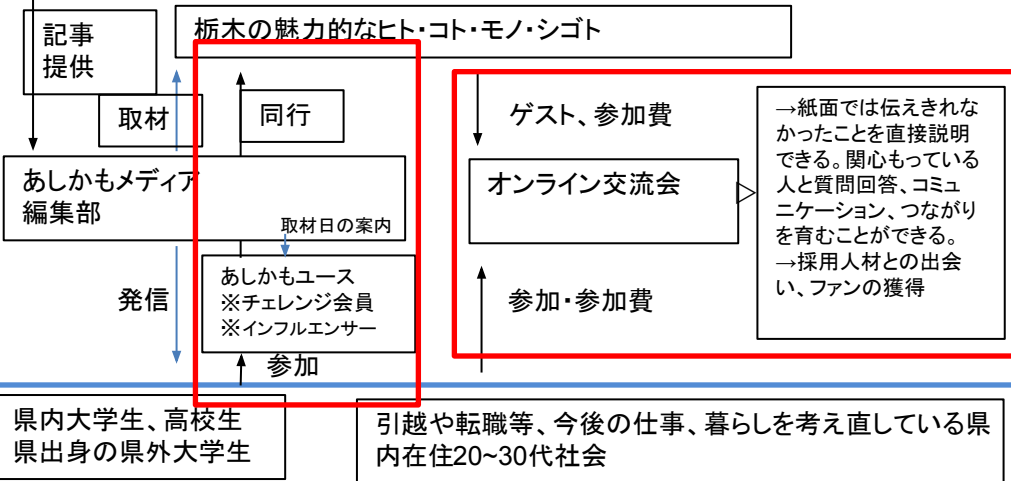
### 変化・価値・ゴール

・企業の日常を経験してもらい、大学生  
から捉える自社の魅力、強みを発信し、  
自信をもって情報発信できる。あしかも  
を通じて、企業のリアルな魅力発信と求  
人をする事ができる。  
・貢献したいと思える仕事と出会う

一週間実践型取材インターン: 大学生が会社の中に入り、企業の魅力の発見、企業へ発表、あしかもメディアで発信。

<実践型インターン事業モデル。実践型インターンのパッケージ化

※受入企業から費用を頂き、若者への情報提供課題解決への価値の提供



## ▶iDEA→NEXTクラウドファンディングの目標 (200万円)達成

### GoodMorning

プロジェクトをはじめます プロジェクトをさがす GoodMorning ISSUES GoodMorningとは?

次世代の挑戦者を育てるプロジェクト。とちぎで挑戦を生み出し続ける。

tochigi\_youth ソーシャルグッド



¥ 現在の支援総額

118,500円

目標金額は2,000,000円

支援者数

16人

募集終了まで残り

19日

挑戦したい気持ちはあっても一緒に挑戦する仲間がない、金銭面の問題で挑戦できないといった人に対して、仲間や協力者を見つける場を提供し、アイデアの実現に向けて共に歩むプロジェクトです。

シェア ツイート コメントで共有 QRコード 埋め込み

プロジェクトを支援する

### ご挨拶

はじめまして!

私たちは栃木県をフィールドに活動するNPO法人

『とちぎユースサポーターズネットワーク』です。



Tochigi Youth Supporters Network\*

tochigi\_youth

栃木県

初めてのプロジェクトです

「若者の力を活かして、地域の課題解決/活性化を加速させる」をミッションとして活動しているNPO法人です。2008年に団体立ち上げ、2010年に法人化して以来「地域のコーディネート もっと見る」

youth\_tochigi

www.tochigi-ysn.net/

www.facebook.com/tochigiyasn

メッセージで意見や質問を送る

リターンを選ぶ

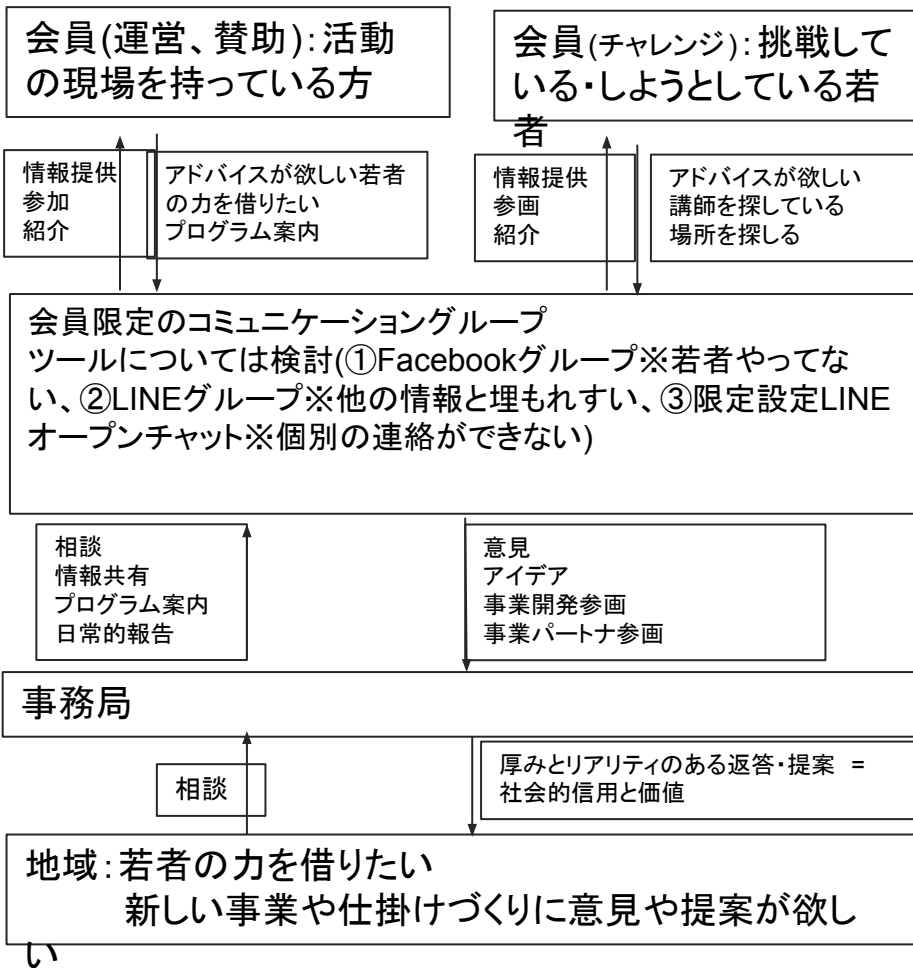
2008年に当団体を立ち上げ、2010年に法人化をし、これまで「若者の力を活かし、地域の課題解決/活性化を加速させる」ことを目的に県内の教育機関や行政、地域作りに関わる様々な人々と一緒に、若者の活躍機会の拡大に向けて挑戦を続けて参りました。



▶会員相互の情報共有グループの策定運用イメージ

▶理事・会員との「経営会議」の実施イメージ。

▶会員・若者との「若者支援開発会議」開催と支援策の試験実施イメージ。



**経営会議**

概要:四半期の会計決算に合わせて、取り組みの進捗情報報告、財政状況の報告、事務局で抱えている課題の提起を行い、会員、理事、スタッフから意見を頂き、現場の運営に反映し、会員参加によるミッションの実現にむけて経営改善、経営の安定化を目的とする。

頻度・方法:3か月に1度、1回2時間、対面・オンラインのハイブリッド形式  
 開催:10月中旬、1月下旬、4月中旬 平日19:00~21:00を予定

**若者支援開発会議**

概要:若者(自由、会員限定なし)と会員が集い、若者の取り組みや課題を共有しながら、必要な支援策について検討し、若者事業加速と新たな支援策、仕掛けるべき社会環境づくりを進めることを目的と実施する。

・<前半:若者チャレンジ事例発表50分>チャレンジ中の若者の取組を5分(取り組みと課題)で発表し、会員からの質問やフィードバック30分)を行い、若者の取り組みを支える。

・<後半:若者を交えて、支援策の検討60分>

会員からの提起もあるが、事務局からも議題を提案する。具体的には、「若者の経済状況と社会活動奨学金の創設の検討」、「デジタルネイティブ世代に対するプログラム提供の変化」など。

頻度・方法:3か月に1度、1回2時間、対面・オンラインのハイブリッド形式  
 開催:9月中旬、12月下旬、3月中旬 平日19:00~21:00を予定

⇒若者、会員、寄付者、支援者、事業パートナー、スタッフ、みんなで創る「挑戦が持続・循環する生態系」づくりと、館員参加による組織ガバナンスと財政の健全化

# 以下、参考資料

(前年度2020年度総会資料)



# 全体新事業スキーム案(2019.6.1～ )

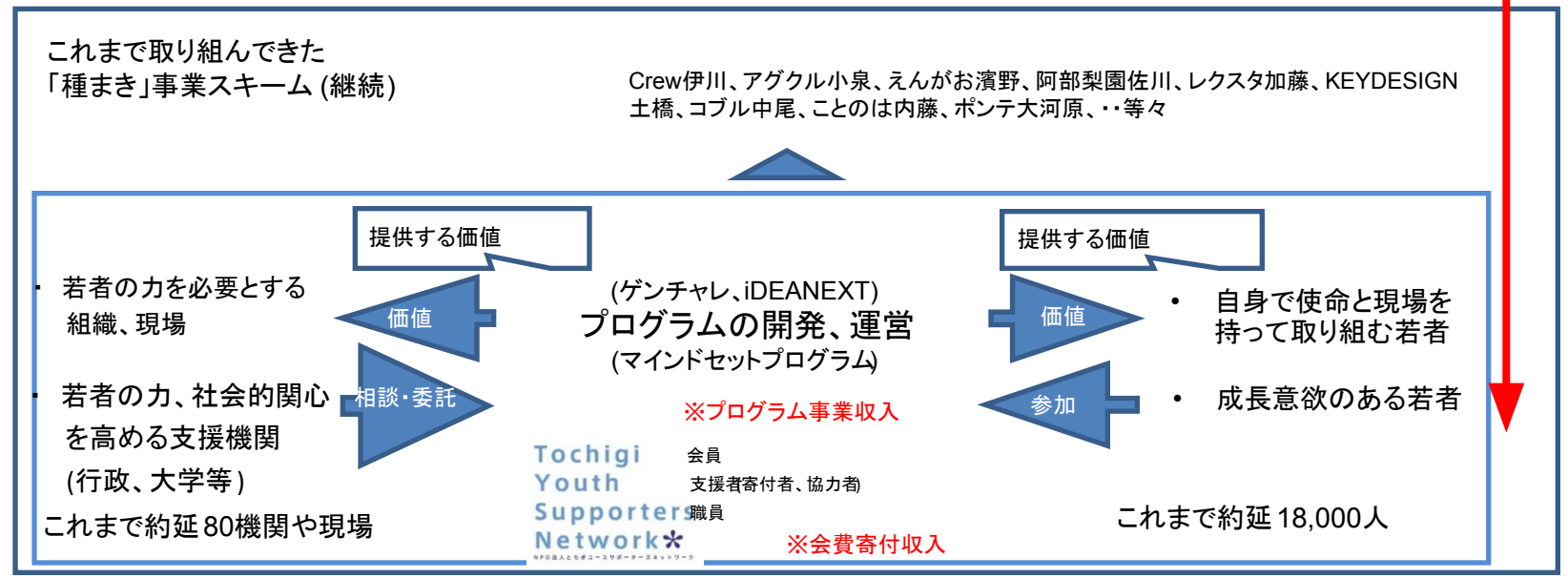
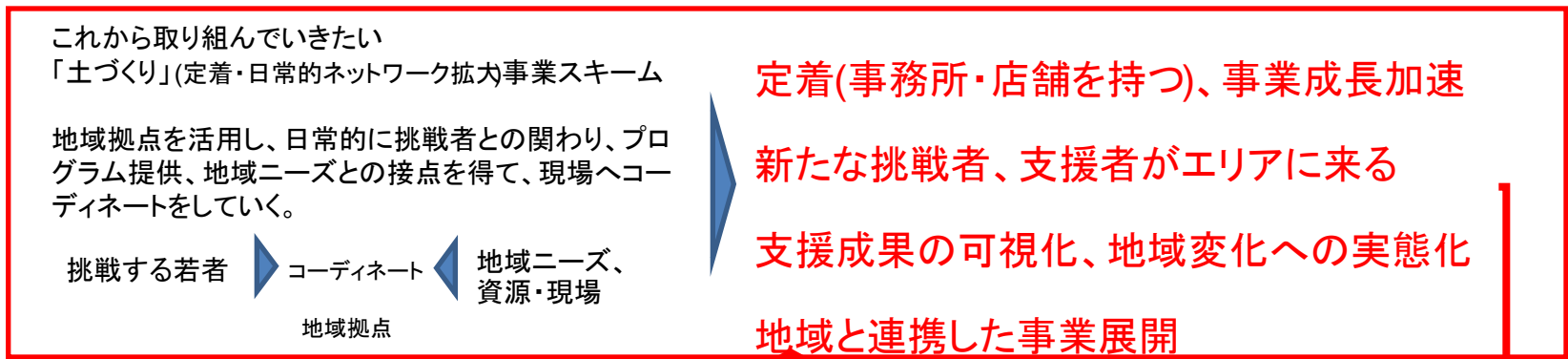
Mission 若者の力を活かして地域の活性化、課題解決を加速する  
 Vision 挑戦が生まれ、育まれる循環する生態系をつくる。

要協議・検討

中期vision 案1 新しいコトが起きるエリアを創造する。  
案2 ユースの支援モデルの他チーム展開する。(現場を持ったコーディネート機関の成長支援)

## 若者を活かして地域の活性化解決を加速する

ユースネットワークを地域に活かし、課題解決の実践と挑戦者が育まれあう日常の景色をつくる。



新たな挑戦者、支援者の掘り起こし

### ▼光琳寺井上さん意図(岩井の理解、4/13井上さん同意)

- お寺の地域の拠所としての原点回帰。地域(住民、檀家)への深い安心の提供したい。
- お寺、また住職として人の生き死に、また生き方に関わる故、よりよく生きて欲しい願いととも、よりよく生きていける社会環境を作り出したい。
- さらに、地域の未来を光照らす創造を生み出す機能を持った新しいお寺の機能・役割の再定義(ソーシャルイノベーションの孵化機能)したい
- 檀家を始めとして、光琳寺のある西、西原地区が高齢者も多いことから、高齢者の活躍・役割を支えられる役割を担いたい
- 井上さん自身の持つ、マインドフルネス他の人材育成プログラムや提供先となる大手企業人材、またキー局メディアとの人的ネットワークを地元を活かしたい。

### ▼とちぎユースサポーターズネットワーク意図

- 挑戦する若者たちを育む機能をプログラムから日常的関わりができるようにしたい。日常的に新たな挑戦者が出会い、支えられる機能をプログラムではなく、エリア・日常として展開したい。
- 育んだ卒業生(起業家等)の現場や拠点/空間をつなぐ機能が弱い現状から、我々も地域に関わり住民の声、理解と期待を受けながら、卒業生に現場を提供・コーディネートしていきたい。(よそ者チャレンジャーと住民が関わり合う地域の玄関的機能、地域に人材定着機能)
- 若者による地域活性化、課題解決をミッションにしているが、事業成果が見えづらく、我々が実際に地域に関わることで、地域の変革事例をつくりあげたい。
- エリアに来ることで、挑戦意欲やいい出会いがあり、このエリアで暮らしたい、暮らす選択が起きるエリアの形成をしたい。

- ▼共通点→
1. 人との関わり、関係性が生まれ、育まれる。その関係性により、安心や希望が生まれる新しさが育つ空間
  2. これからの未来と社会に対して、命をより輝かせる使い方ができるような人を育みたい。
  3. 人づくり、まちづくりの拠点

### ▼コアコンセプト案 ※内々で共有。打ち出さない。言葉が重いので。

再定義(今までの常識を疑い、本質を捉え、意味づけをし直す)、暮らし・生き方の見直し、地域の変化促進、化学反応を促進する触媒、ソーシャル・キャピタル、 →常識を疑い意味を問い直し生まれる、新しい関係性と生き方が育まれる 拠点→TERAを逆にした、ARET。

### ▼打ち出すコンセプト案 (わかりやすく、イメージしやすい)

・1年間議論をしながら、設定。  
 仮コンセプトとして、新たなもの物語を始める場所? 精神と時の部屋? ソーシャルイノベーション育成拠点?

▼機能  
 <(地域住民が集い)安心できる機能>  
 <挑戦者が集い、高まる機能>

▼取り組み内容  
 会議、打合せ、お茶飲み会等への空間貸出  
 コワーキングスペース空間貸出  
 講座・WS、議論、プレゼン・マッチング等のプログラムの提供  
 講座・WS、議論、プレゼン・マッチング等のプログラムの提供  
 利用者発案プログラム、ARETゼミの提供、みんなで大掃除・食事

▼利用者に提供する価値  
 ⇒安心、新たな出会い・関係性、自己肯定感  
 ⇒刺激、肯定感、仲間、資源、情報  
 ⇒アイデア、疑問、実践資源、  
 ⇒発見、肯定感、刺激、仲間、出会い

▼利用者想定  
 <井上さんと関わりのある方>  
 <ユースと関わりのある方(若者: 挑戦者、社会人: 支援者)>  
 <自身に社会的挑戦のアイデアがありながら一歩踏み出せずにいる層(講座・ワークショップ受講しながらも自分で“やる”と思えないでいる層)→“やる”人が近くにいることで、“自分もやる”化 >  
 <持続的な活動にしていくなぎ意志のある市民活動者→キーマンに出会う、新たな知識・刺激と出会う>

▼Aretオペレーション想定  
 <ユース日常業務>プログラム開発、運営  
 <ユース会員サービス>YOUTH TIME、  
 <Aret利用者フォロー>入室管理、Aret空間予約管理、情報提供  
 <日常的清掃>掃除機、ゴミ出し、  
 <>

<1. 趣旨・概要> 2012年に始まったIDEA→NEXTは、「とちぎの新しい物語をつむぐ。」をコンセプトにし、ヒトとマチがイキイキとした地域を創るため、社会に新しい価値を提供する意志を持った若者を数多く輩出し、地域の困りごとの解決や社会をよくする活動を促進するアイデアの実現のために、若者が県内の地域活動実践者や経営者、同じ志を持つ若者同士や、オーテンス(最後の公開審査会における一般観覧者)とつながる場です。またつながりによって、アイデアを持った若者がさらに自身のプロジェクトを加速させ、さらなる成長を生む機会にもなっています。

<2. 現状> 開始後年目を迎え、iDEANEXTから事業として継続する事業家が生まれ、また卒業生が次世代の挑戦者を支える生態系として機能し始めている。しかしながら、エントリーから持続的事业に取り組む事業家には、以前障壁があり、目指しながらも終了後の活動継続は0%になっていない(2016年度40%(4/10)、2017年度25%(2/8)、2018年度は60%(3/5))。これらから継続して取り組み続ける者は、エントリー段階から、現場、現物がありと、実現したい景色と事業実施する覚悟が高い傾向がある。合わせて、そこ行くまでに自身が様々な機会、出会いを有していることを大きい。なお2017年度より一次審査を設け、通過者に実践的仮説検証を取り入れたプログラム転換は、継続的取り組みにプラスの影響があったと捉えている。とはいえIDEA→NEXTの原点は、アイデアを持った若者の行動を実践化させる入り口でもあることを踏まえ、入り口は広げつつ、出口も高めることの両立を図っていききたい。

<3. 課題> ①修了後の継続的取り組みにおいては、プログラム効果以上に自身のモチベーションの高低による影響が大きい。これまでのプログラムスキームでは時間が足りない。  
 ②当会で実施する業務委託含むプログラムとエントリー者の連動が図られていない。  
 ③本事業を安定実施するためには、現行でも50万の事業費が必要であるが、寄付・協賛金等による支援金額は不足してお(2017年98万)、また進行中業務と並行して行うために、資金調達に関わるスタッフの優先順位が上がりきらず時間的にもかけられていない。

<4. スキーム改善ポイント>

- 更に、アイデアからのアクション率と継続率を高めていくスタートアッププログラムにしてため、以下の点を修正し実施していく。
- ①半年から年間を通じたプログラムへ、12月エントリー×切を8月×切エントリーを早め、1st stage「アイデアブラッシュアップ」と2nd stage「実践的仮説検証」に分けて実施する。なお2nd stageの入り口として、1次審査を設ける。
  - ②既存のプログラムと連動させ、多角的に自身のアイデアを見つめ直し磨かれる機会を広く数多く提供する。
  - ③年間通じたファンレイジングの実施。現行より倍の時間がかかることから事業費を年間0万円と設定し、年間を通じ出会う人に当会理解と合わせて支援を募る、支援を募っていく。

<5. 改善によって生み出したい成果>

- ①修了後、継続して課題解決に取り組む事業家の輩出数の増加
- ②アイデアを持つ若者のエントリー数の増加
- ③支援者・協力者の増加

**ビジョン「挑戦が生まれ、育まれる循環する生態系をつくる。」の具現化**



# 2021年度の組織運営計画について —NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク—

「若者の力を活かして地域の課題解決/活性化を加速する」ミッションの達成を図る為、2010年度の組織運営に係る基本方針の実行検証を行い、2021年度の基本方針に活かしていく。

## 1. 前年度(2019年度)の基本方針の実行検証と総括

### (1)現在取り巻く外部環境の認識について

①**従来の社会システムや価値観の転換のために、新しいアプローチの創出に挑む人材を育み、可視化していく仕掛けの加速が必要である。**

「人口減少の進行」、「超少子高齢化による偏る人口バランス」、「国家財政のひっ迫」等の状況は好転せず、不透明な未来に対して不安がある。特に若者においては特に顕著である。彼らは不安を感じないように、未来を考えず「今」だけを見て、「挑戦」よりも「平穩」を選択しやすい傾向がある。次世代の若者が「希望」に思えるように、同世代が未来に対して主体的かつ挑戦的な行動していくその土壌と支援が必要である。また彼らの行動、成果を可視化していく必要がある。また、「SDGs」など、世界規模で持続可能な社会に向けて行動が求められている。またSDGsには、現在の延長線ではなく、バックキャストिंग（未来を設定して、そのために革新的に行動する）が求められている。

②**「地域」と「若者」をコーディネートできる人材が不足している。**

民間(企業)、行政、大学等の教育機関、等、若者との関わりや支援機会の提供などの多くの相談を頂いている背景には、社会的にも若者の力を期待し、必要としている組織・現場に当会の取り組みの認知が広がっていると考えられる。また新しい力を必要としている組織と若者が具体的な接触機会が少ないことも要因と考えられる。若者にとっての情報の価値は、情報の質や内容だけでなく、発信者と自身の関係性があるかが影響する。そうした若者の特徴を踏まえたコミュニケーションをとり、地域に関わる人達の期待や必要性を繋ぎ、参画を提案し、価値を創出するコーディネートを担う機関、また人材の少なさも課題である。

③**持続可能性のある新しい価値観、暮らし方が浸透してきた。**

「求人不足」「働き方改革」「SDGs」「地方創生」など、持続的社会への「暮らし方」の再定義が求められている。従来の社会システムからの転換が求められていることに加え、新しい価値観やライフスタイル、つまり、より健康的かつ持続可能性が高いかが人にも、社会にも、地球にも重要になっていると捉えている。従来の延長線ではなく、これからの大きなあるべき姿を見据えた行動や支援が求められている。

当会のミッション、またこれまでの取り組みと上記の外部環境を踏まえ、以下の通り、課題と課題に立ち向かう基本方針と重点事業を定める。

### (2)【基本方針2019】

**「地域」×「若者」を体現する現場性あるコーディネート事業を高める新たなスキームづくりと組織の基盤安定化**



### (3)取り組むべき課題

①大きなあるべき社会像を捉えた「事業(支援)スキームの見直し」、「プログラムの深化・連動」、「より一層の挑戦人材の育成と現場へのコーディネート強化」

②「地域」×「若者」をコーディネートできる機関、人材の育成

③未来を見据えた人材の確保・育成等事務局体制の整備と会員・支援者との関わりの見直し

### (4)重点事業

①地域拠点を踏まえた、新たな事業スキームを検証していく。

⇒地域拠点aretに挑戦する若者と地域課題の声が集まり、挑戦者が課題現場に入り現場の景色を変えていくコーディネートに注力する事業スキームを描いた。iDEANEXT卒業生がaretに集うようになったり、aretオーナーの光琳寺と連携した取り組みが始まる動きが起きた。他のプログラムとも連動し挑戦者や相談者が増えたりと挑戦者へは地域拠点aretの認知が高まった。しかしながら、課題を抱えている人の掘り起こしや認知向上については、打ち手に欠いた。新たな事業スキームを描きながらも、これまでの事業スキームの運用の比重も大きく、並行で行う難しさを感じた。

②「iDEA→NEXT」を中心事業に据えて、他のプログラムとの連動性を高め、質の高い支援を提供し、修了後の継続的实践者を増やす

⇒エントリー者が13名(昨年度6名)と大幅に伸びた。各プログラムを入り口にして連動できたことと、プログラムを長期化することに、アイデアのはじめ想いはあるけど、仮説はない層を取り込めるようになったが要因と考える。しかしながら、コロナウイルスの影響もあり13組のうち5組が辞退している。長期化によるプログラムの間延び感もあり、アイデアの始まり層を支えることの難しさや意義を今一度問直しターゲットの設定と支援プログラムの見直しが必要である。

③当会のコーディネートノウハウの他地域展開(ハンズオン)支援とネットワークの形成の準備を行う。

⇒地域コーディネーターの養成講座(下野市)等での開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により実施ができなかった。ハンズオン支援まではできなかったが、台風19号の被害対応により県内各地の地域×若者をコーディネートできる団体と協働実施する等ネットワークを活かす動きはできた。

④組織運営の観点では、次期の中心を担う20代職員採用と働きやすい雇用環境づくりを行う。なおより信用を高め、NPO業界のモデルとなるようコンプライアンスの遵守においても力を入れていく。合わせてYOUTH TIMEの位置づけを踏まえ、会員・支援者との関わりを見直し、具体的な改善を行う。

⇒新たな職員と大学生のインターン生が加わりスタッフの若返りが図られた。またこれまで同様フレックスでの勤務体制に加え、事務所にいなくても仕事ができるようにクラウドでのデータ共有化やslackを活用した社内コミュニケーションなどに着手した。YOUTHTIMEの見直し、会員に制限することなく当会に関わる方(利用者、応援者、事業連携者・協力者など)との新年会などを実施し、それぞれの関わり合いを広げることができた。

### (5)2019年度の実施報告 詳細は別紙

	2019年度	対前年比	2018年度	対前年比	累計(2010～)
提供者数(人)	5,571	+535	5,036	-1,559	28,619
協力者数(人)	426	+184	242	-138	3081
活動時間(H)	19,977.5	+7,106.5	12,871	-4777	101,930

### (6)2019年度実施において見えてきた新たな課題

新型コロナの影響により、直接的な関わり合いが自粛される中、これまでのプログラム開発や運営方法では、実施ができないなどの影響を受けた。リスクを踏まえたうえで、直接的に関わり合う価値、またプログラムでの提供すべき価値を改めて再定義する必要がある。

また2019年度計画で打ち出した地域拠点運営からの若者×地域展開の新たな事業スキームの実現と、県内各地の地域×若者を巻き込むプログラムを集約し、若者に届ける地域情報プラットフォーム(地域メディア)の

### 【総括】「プログラム開発運営モデル」から「地域拠点aretを据えた挑戦する若者の地域展開」への必要がある。

提供者数また決算共に微増となった2019年度。新たな若いスタッフの合流によりプログラムのコーディネートや管理運営業務も分厚く実施することができた。また地域拠点aretへの移転がプログラムを事務所併設した環境下で実施できるようになり、移動や準備等の工数軽減の他、参加者と拠点の関係性が積みあげていくことができ、プログラムの効果や連動、参加者の定着がしやすくなった。また上記にもあるように当会に関わりある若者を含め、挑戦者意欲ある若者への認知の拡大を図ってきた。次年度については引き続きより一層の挑戦人材への認知拡大しながら、若者の力を必要としている声を集約し、若者の活躍機会となるプログラムを開発し、エリアに密着した形で実施していくことが求められる。若者が力をつけただけでなく、その成果として、地域社会に一人でも多くの笑顔を増やしていく貢献を成果とできるように、事業支援を踏まえた地域コーディネート業務の質の向上も目指すべきところである。その他、県内各地において、地域の魅力や課題に「関わりしろ」を持たせたプログラムを開発運営できるコーディネーターが広がりを予兆を感じている。その際、各地の地域コーディネーターの質の向上と、地域コーディネーターが繋がっていない層を届けていく役割が生まれる。そうした県内地域コーディネーターとも有効性のあるネットワークを構築しながら、当会として県内の教育機関・行政、そして若者との関わりが広がっている強み活かし、県内各地に若者の力を届けていける体制や仕組みの整備も必要である。

一方で、コロナウイルスの影響により交流の自粛など、これまでの関わり合いを前提としたプログラム開発運営モデルの危うさも感じた年であった。人と人が「関わり合う価値」の再定義と発信、同時に、安定

## (5)重点事業(2020～2022)

①コロナ禍の影響を踏まえ、これからの若者が求める社会像や機会、価値観を丁寧に紡ぎ、広く社会に発信しながら、中期計画の策定を行う(A)。またそれらの未来像に即した、必要な人物像の設定と育む力の要素設定し必要な新たな支援プログラム開発を行う(B)。また声を聞くだけでなく若者同士がこれからの未来や社会を議論していく場づくりを積極的に行っていく(C)。

→A:当会の学生インターンシップ生と20代スタッフを中心に、学生100人に「できたらいいな栃木像インタビュー」を行い、求める社会像と価値観を記事にしていく(2020年度内60人、2021年度内40人)。またそれらのヒアリング内容をもとに、理事、スタッフ、会員と中期計画(2025年に達成することとそのプロセスアクション・スケジュール)を設定する。

B:依然プログラム開発依頼がある状況の中で、若者が求めるこれからの社会の姿を構成していく人物像を定め、要素となる力を育むプログラムを策定していく。

C:これまで会員交流会の位置づけであった「YOUTH TIME」を、会員制限を設けず、学生が未来を思考し・議論し、仲間が広がっていく位置づけに展開すると同時に、会員にも参画いただき、学生と会員とが世代を超えて、未来を描き、新たな仕掛けを生み出し加速させるネットワークを育む事業とする。なお、学生100人インタビューでヒアリングした学生を積極的にこの場に展開していく。

## ②社会環境に適したユース事業(「地域×若者コーディネート」に加えて「情報プラットフォーム」、「地域拠点運営とエリアマネジメント」の実行と連動)の再構築

→①の若者が求める社会像・価値観の確認と同時並行であるが、これまでの「新しい力を必要とし変化したい組織・現場」と「挑戦意欲のある若者」のコーディネート(プログラム開発運営)は引き続き実施していくものの、新たにより多くの若者が地域づくりへの関心・意欲を高め、参画機会が広がるように、アイデアネクスト卒業生たちのプログラムや地元中小企業や行政から学生への案内したいものを集約し、栃木県内の高校生・大学生に届けることができる情報プラットフォーム(地域メディア)の創設に取り組む。また、若者の力をリアルコミュニティに展開できるように空き家に挑戦者が入居し活動拠点できるようなエリアマネジメント事業にも着手する。

(6)2020年度実施事業(①事業名、②事業内容、③実施頻度、④実施場所、⑤対象者・提供者数、⑥予算(収入) ⑦事業パートナー)

### (5)-①に適応した事業

【新規/自主】①学生100人インタビュー ②学生のこれからの望む社会の姿をヒアリングし、これからのあるべき社会の姿を紡ぐ。③通年 ④栃木県内 ⑤栃木県内の大学生60名 ⑥100千円 ⑦—

【新規/自主】①中期ビジョン計画(アジェンダ2025)の策定 ②学生ヒアリングをもとに、これからの若者が望む社会と当会のミッションを掛け合わせてビジョンの策定と2025年までのアクションとプロセス、スケジュールを策定 ③年3回 ④栃木県内 ⑤理事、会員、スタッフ ⑥100千円、⑦—

【継続/自主】①YOUTH TIME、②学生×地域の未来議論 ③隔月/年6回、④aret ⑤60名 ⑥100千円 ⑦—

【新規/自主】①コロナ被害の若者支援緊急対応 ②アンケートに実施と必要な支援プログラムと仕組みの開発 ③通年 ④県内大学生 ⑤1000名 ⑥500千円 ⑦—

### (5)-②に適応した事業

【継続/自主】①ソーシャルグッドスタートアッププログラム「iDEA→NEXT」②伴走支援、ブラッシュアップ合宿ファイナルプレゼンテーション ③通年 ④栃木県内 ⑤社会をよくするアイデアを実施したい若者6組 ⑥1080千円 ⑦協賛企業等

【継続/自主】①実践型インターンシップ「GENBA CHALLENGE」②若者の力を取り入れて組織変革の加速 ③通年 ④企業4社 ⑤受入企業等 企業2社 大学生2名 ⑥500千円

【新規/委託】①仕事と子育てでインターン ②就業体験と就業後の子育てを体験し、広く社会に発信するインターンシップ ③7月～3月 ④宇都宮市内 ⑥市内企業3社 大学生6名 ⑥2000千円 ⑦宇都宮市男女共同参画課

【新規/自主】①地域拠点の活用・運営 ②aret(仮)の運営による日常的挑戦者支援 ③通年 ④ARET(宇都宮市西地区) ⑤200名 ⑥800千円 ⑦光琳寺

【継続/自主】①情報発信 ②WEBサイト、SNS(FACEBOOK, Twitter, LINE@)の管理運営 ③通年 ④事務所 ⑤— ⑥300千円 ⑦—

【新規・自主】①地域×若者情報プラットフォーム構築 ②開発プログラム他、関係機関・団体の若者を巻き



### ③各地の「地域プログラム」への参加者のコーディネートと「地域コーディネーター」との連携検討(連携効果予測、連携の具体的方法)

→②の新たな事業スキーム開発のうち「地域メディア事業」の機能化により、各地の地域参画プログラムを多くの学生の届き、県内の人材の還流を起こしていく。また各地の仕掛け人(コーディネーター)と定期的な意見交換や研修の場をつくり、それぞれの独立性を保ちながら、相互に提案・相談・協業できる関係性を構築していく。

### ④若者の社会参加しやすい仕組・み仕掛けの検討

→経済的な生活基盤が弱い大学生がより地域づくりや社会貢献活動に参画できるように、支援金の創設・運用・充実や、学生の参画をボランティアから仕事化できるような実績作りと各関係機関への提案を行っていく。まずは、当会のインターンシップ生に対して活動支援金の提供を始める。

### ⑤地域拠点を基軸にしたエリアマネジメント、コーディネートの実施

→「宇都宮空き家会議」や「創業プロデュース事業」、「自治会インターン」等の事業パートナーと取り組む委託事業をきっかけにして、「地域連帯経済圏」(地域住民のつながりを大事にしながら、地域社会により経済活動もする暮らしエリア)のモデルづくりとエリアマネジメントができるコーディネートノウハウの蓄積を行う。

### ⑥社内の若手スタッフの人材育成、ガバナンスと組織基盤の再構築

→スタッフ間の意見交換やそれぞれの課題や悩みをどこでもいつでも共有・反応できるように、オンラインでの連絡ツール「slack」を積極的に活用していくこととスタッフ会議や研修の充実、またスタッフ個々の関係性をより強固なものにしていくために雑談等のコミュニケーションを積極的にとれる環境を整えていく。

またガバナンスの強化については、「理事会」には位置づけないが当会の理事、スタッフ、会員がともに未来に対する視点や期待を共有していく協議の場を積極的に作り出していく。YOUTH TIMEは学生を中心に据えた場に対し、「Supportes Bar」(仮)等支援者の未来像会議を行っていく。

→全体として、事業推進の重点を業務委託の執行から、これからの若者・社会を中心に据えたビジョンの打ち出し、議論、具現化の実践を行っていく。

(5)-③に適應した事業

【継続/委託】①下野市関係人口創出事業 ②地域コーディネーターの育成および中間支援組織の立ち上げ ③通年(6月～)④下野市・東京圏 ⑤50名 ⑥予算(収入)3400千円 ⑦下野市

【新規/委託】①下野市公共施設公民連携推進事業 ②公民連携事業 ③通年(6月～) ④下野市 ⑤100名 ⑥5400千円 ⑦下野市

【継続/自主】①UIJターン事業「はじまりのローカル コンパス」②関係人口創出と地域コーディネーター育成、③通年(6月～) ④栃木県・首都圏 ⑤30名 ⑥1200千円 ⑦—

【継続/委託】①Jimoto tochigi ②東京圏在住栃木出身者コミュニティづくり、③8月/2月 ④栃木県・首都圏 ⑤100名 ⑥3790千円 ⑦県地域振興課

【継続/委託】①地域づくり担い手育成事業 ②地域づくり人材育成 ③通年 ④栃木県 ⑤300名 ⑥3980千円 ⑦栃木県地域振興課

(5)-④に適應した事業

【継続/自主】①ホンdeチャレンジ ②読まなくなった古本を寄付して若者を育む仕組 ③通年 ④全国 ⑤40名 ⑥100千円 ⑦バリューブックス

(5)-⑤に適應した事業

【継続/委託】①創業プロデューサー事業 ②起業希望者が集うエリアづくりと創業伴走支援 ③通年 ④栃木県内 ⑤起業志向の若者 100名 ⑥3521千円 ⑦栃木県経営支援課

【新規/委託】①自治会インターン ②モデルとなる3自治会が受入れ先となり、自治会の組織変革、新規加入促進に取り組むインターン ③6月～3月 ④宇都宮市内 ⑤市内自治会3社 ⑥大学生6名 ⑦990千円 ⑦宇都宮市みんなでまちづくり課

(5)-⑥に適應した事業

【新規/自主】① Supporters Bar ②支援者とスタッフによるこれからの社会の在り方の議論・交流会 ③年3回 ④aret ⑤60名(20名×3回) ⑥100千円 ⑦—